えん
寿東部地区
社会福祉協議会
広報誌
第2号
平成24年3月

3.11の教訓を生かして 地域社会を見守ろう

あの日の教訓を生かして

寿東部地区社会福祉協議会　会長　中村　宣吉

広報誌「えん」第２号を発刊することは大変喜ばしいことです。昨年創刊号を発刊するに当たり、寿東部地区の皆さんが日頃当たり前のごとく、あまり意識せずに続けていた活動や横浜の下町に住んで、隣近所と何気なく付き合ってきた少々の親切、好意が福祉活動につながっているんだなと実感できました。福祉活動を特に意識せず、日常生活の中での日頃の「付き合い」「好意」の分かち合いの中に「縁」が出来て、それが「絆」となって生活環境が育まれていくという結果を生んでいる。これが下町寿東部地区の特徴だと思いました。

昨年の３月11日の東日本大震災は現地は勿論のこと当地域にとっても大変な事件でした。少なくとも日頃経験したことのない天変地異に遭遇して気も心も動転いたしました。人知を越えた天災にどう対処したらよいのかいろいろの事を考えさせられました。まず被災地にどのように私たちの心のこもった援助をしたらよいのか？その方法は？等、各町内会は知恵を絞り迅速に対応しました。

人工呼吸の訓練をする中村宣吉会長

災害に対する防災意識も普段の何倍も高まり、独自の防災訓練を行ってまいりました。また連合町内会と南吉田小学校との合同防災拠点訓練も行いました。

私たちはこの災害をより良い教訓にして、来るべき災害にどのように対処すべきか勉強させてもらいました。小学校と子供たち、老人と要援護者、居住外国人とその家族等々、いろいろな未解決問題が山積みです。災害が発生したとき、即時行動を起こす手順をしっかりと決めておくこと。これは大変大事なことです。そのためには日頃より近隣の人とのつながりを大事にして、自分のこと、家族のことを互いに知り合っておくこと、互いに助け合う心を持ち合うこと、特に老人、子供には絶対必要なことだと思います。

私たちは３月11日の教訓を生かして地域社会を見守っていかなければなりません。

今回の広報誌「えん」第２号のメインテーマは、この大震災を通じての地域活性化と福祉活動をつなげていきたいという思いで各町内会ごとに関連した活動状況とその思いを投稿していただきました。

私達、寿東部地区社会福祉協議会は寿東部連合町内会と一体となって福祉部門の活動は勿論、民生児童委員、保健活動推進委員、老人会、青少年指導委員、スポーツ指導委員の方々が自分たちの「枠」にとらわれずに、お互いに協力し、意識を共有していく体制が構築されることを切に願っています。

地震対策って…

白妙町第一部町内会　府川　勝則

私が生まれ育った静岡県清水市（現　静岡市清水区）は、ここ港『横濱』同様の港町で、日本でも有数の貿易港です。（誰だ「漁港だろ！」とか「横濱と一緒にするな！」と言ってるのは…。）そんな日本三大美港（詳しくはwebで…）を持つ港町に育った私は、16年前に白妙町に引っ越して来ました。

静岡県は私が生まれる前から“東海沖地震”に備え、もちろん小学生の頃から防災の日は地震による災害を想定しての訓練をしていました。（防災頭巾もかぶったりして…）

2011年3月11日の東日本大震災は、子供の頃から言われ続けてきた“想像の中でしかない大きな揺れ”を感じ身も震える思いでした。その日は会社から帰宅する事も出来ず、翌日の昼過ぎに白妙町に帰って来ることとなりました。道路は一部ひび割れ、近くの家は壁も崩落状態…まだまだ町も余震に備えピリピリした雰囲気がありました。

そんな中、白妙町青年部　石川氏より無事の確認と、白妙町の被害状況の連絡があったのです。人的な大きな被害も無くホッとしたのと同時に、この町の状況把握の速さと、情報収集力にはビックリさせられました。（さすが下町白妙町！）

普段より近所付き合いも厚く、町内イベントも多い町内会ですから、人と人とのつながりも厚く、顔見知りも多いことから、自然と危機管理も出来ていたのだと思います。

白妙町では、炊き出し訓練を兼ねた（誰が何と言おうと兼ねてるんです！）「餅つき」「バーベキュー」も定例で行い、人のつながりを大切にしている町内会です。

今回の災害を通して…だけではありませんが、あたたかく、時には厳しく、喧嘩もし、笑い、助け合い、町全体が一つの家族のようなそんな町内会が白妙第一部町内会です。（ん？盛りすぎ？）

いつまでも良き下町風情を大切にお付き合いの輪を広げていきたいものです。

東日本大震災と福祉活動について

白妙町第二部町内会　谷口　有人

先ず、東日本大震災により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。そして、被災者の方々を精力的に支援している方々に対しても深く敬意を表します。

さて、2011年3月11日に、マグニチュード9の大地震を引き起こした東北地方太平洋沖地震を契機とし、過去に起きた巨大地震の痕跡調査が進むにつれて、同規模の巨大地震が日本近海で発生する危険性の高いことが明らかになってきました。また、海溝型の巨大地震だけでなく内陸の断層が引き起こす直下型の大地震についても、改めてその危険性が指摘されています。

社会福祉活動の一環として、東日本大震災による被災者の生活支援が行われていますが、人口密集地である首都圏が被災した場合には、現行の社会福祉の仕組みでカバーすることは非常に困難であることが予想されます。

そこで、将来予想される大災害に対して備えるために、被災者支援の為の社会福祉の仕組み作りも大切ですが、効率優先による一極集中型ではなく、災害リスクに応じた分散型地域社会の構築に取り組む必要があるのではないでしょうか？そして、個々の地域に根ざした社会福祉を実現することにより、災害に負けない地域と地域、そして、人と人との絆を構築することができるのではないかと考えています。

その為には、東日本大震災の惨状から目を逸らさず、他人事ではなく自分自身の問題として捉え、より良い社会の実現のために個々が行動を起こすべきです。短絡的な目先の利益を追い求めるのではなく、長期的な視点に立ち、すべての人々が幸福に暮らせる社会を実現するための絶え間ない努力を行うことによって、はじめて真の意味での社会福祉の実現に繋がるのではないでしょうか？

医大通り商店街
食堂 いせや
横浜市南区白妙町4-53
営業時間 10:00～15:00 17:00～21:00
TEL 045-231-4096

医大通り商店街
中華料理 西洋料理 うらふね
横浜市南区白妙町4-53-16
営業時間 11:00～21:00
TEL 045-231-8288

皆様方に愛され80年
医大通り商店街

置田運輸株式会社
代表取締役　置田　光男
〒232-0023 横浜市南区白妙町5-65
TEL 045-252-9283
FAX 045-252-9284
info@okita-unyu.com.

3・11のこと

真金町第一町内会　神立　佳子

三月十一日田舎を離れてから久しく会わなかった叔父から電話が入った。

「三陸町の家が流されて何もないらしい」と。そんな馬鹿な！かつてのチリ地震津波でさえどうって事なかったのに。

嘘だ！しかし叔父は「本当だ。命からがら逃げのびた親戚から電話があった。その後、もう通じないんだ」翌々日兄嫁の弟から、家が流された。母と兄嫁がお寺に安置されている。「お兄さんはまだ不明だ」「電波の通じる所まで来て電話している。ガソリンもそんなに無いから、家に戻ったら電波が通じず連絡出来なくなる」そこで切れた。

聞き間違いかも知れないと確認の電話をしてみたが、もう携帯も電話も通じない。

“なんで！”なんで！兄は何処に居るの！夢にも出て来た。何も言わぬ兄の姿。見つからないと言うのは生きている証拠。

現地では歩いて探し回ってくれていると言う。私は毎日ニュース・ネットとありとあらゆる手段で探した。現地に行きたい！手段が断たれている。もどかしい！

兄は絶対生きている！しかし、二週間後位に、兄は近くの竹藪で見つかった。

身に付けた腕時計・ネックレスで間違いないと。寸断された道路を行かれる者だけが、兄のお別れに立ち会えました。

私達は家族三人が見つかりましたが、三人を送りに来てくれた人達の中にはまだ家族の見つからない人がいて、とても複雑な思いでした。火葬場は休む間もなく夜中迄続けられていました。

現地は信号機は倒れ、小さい船やらなにやら瓦礫の山で、それを見た時、顔がこわばって動けず声も出ませんでした。

山に残っている木の枯れ具合でここまで波に呑まれたんだ！どんなに悲しかったことでしょう。生き残った人達は皆逃げるのに必死だった。車で逃げる時、強引に乗せれば…しかし後から波が…別の生存者は家で有線放送を聞いていた所、放送が途中で聞こえなくなった。そこで外に出てみたら、ずっと向こうから茶色の壁の様な物がどんどん来るのが見え、年老いた母を、七十才の自分がおぶって逃げるのが精一杯だったと言っていた。

この現状を見て三人の納骨も済ませ、これだけの報道を耳にしても、まだまだ悪夢ではないかと思えます。おかしいですね…

地域防災拠点訓練に参加して

高根町西町内会　木村　キヨ子

3月11日の東日本大震災の際は、多数の外国籍の方が南吉田小学校に避難して来られ、対応に苦慮されたとの事。

それを教訓に、11月6日に外国籍の生徒、保護者の方々を対象にした訓練が行われ、中国語、韓国語、タガログ語、タイ語のグループに分け、それぞれ通訳の方を配置し、受け入れを待っていました。しかし実際に参加された方は10名足らず、拍子抜けした感じです。就労目的で来日した方が多いのでしょうか？事が起きなければ、休んでまで参加する必要は無いと判断したのでしょうか。そういう方々に、どうしたら参加してもらえるのか、考えてしまいます。

高根町西町内会では、水、乾パン、毛布、簡易トイレ、紙おむつ等、ある程度の物は準備しております。しかし何と言っても町内の人同士、いろいろな行事に参加して、お互いを覚えてもらう、これはとても大切な事だと思います。時にはわずらわしいと思う事があるかもしれませんが、隣、近所の助け合いが、どれほど励みになるか、皆さん感じていると思います。

日頃から、食事、運動に気をつけて、健康で過ごせる様、頑張りましょう。

“自分の身は、自分で守る”です。

株式会社 清水葬具本店
（代表取締役　清水宏一郎）
〒232-0021 横浜市南区真金町1-1
TEL 045-231-7139・3575
FAX 045-261-3677

金刀比羅神社
大鷲神社
〒232-0021 横浜市南区真金町1-3
TEL 045-231-3208
FAX 045-231-3205

(有) 神教販
〒232-0021 横浜市南区真金町1-8
TEL 045-231-3167
FAX 045-231-6052

セレモニーホール 奉誠殿
〒232-0021 横浜市南区真金町2-20-4
0120-53-0853
FAX 045-262-6626

大切な縁結び

永楽町内会　編集委員　山田　宏子

平成23年3月11日ー今迄に経験した事のない大きな揺れを感じた時、私は飲食店にいました。食器が次々と落ちて割れる音が厨房から聞こえてきました。その音は今でも強く耳に残っています。慌てて店を出て行く人や、家族の安否を気遣い電話をする人。そして外の様子を窺う人。皆それぞれに行動が違っていました。自分は、いざという時、臨機応変に行動出来ると思っていましたが、その時の私は揺れと音とで頭の中は恐怖心でまっ白になり、パニック状態に陥り、その場に立ちすくんでしまいました。

地震が起きた時は、自分の身は自分で守らなくてはならない。それが基本なのですが、普段からどのような行動をとったら良いのか考えておかなければならないと反省しました。

その日、私が目にしたのは、いち早く消防団員が巡回している場面。日頃地震を想定した訓練を受けているだけあって、心強く頼もしく思いました。また、民生委員は1人暮らしの方の安全確認に回っていました。そして子供が小学校に通う保護者は大急ぎで学校へ向かって行きました。子供たちが先生と集団下校で帰って来た時は、私もホッとしました。

災害時の地域に於ける家庭防災員の役割も、また大変重要だと思います。家庭防災員の殆どが女性なので、女性ならではの細かい気配りが出来るのではないでしょうか。10月の講習会には永楽町からも数名参加しました。とても有意義な講習会だったそうです。連絡員の三澤さんに感想を書いていただきました。

> 今年も家庭防災員講習会に参加しましたが、今迄と違い、いざという時に役立てなくてはと実感しました。自分の家庭を守るのは勿論、もっと地域を守る活動が出来ればと思います。心通う地域作りに少しでも役立つ自分でありたいと思います。
>
> 永楽町家庭防災委員　三澤　智恵子

東日本大震災当日から、多くの人たちが地域の助け合いに参加し、地域を越えて被災地へ支援物資・義援金という形で“愛”を届け“縁”を結んできました。

震災はいつ何処に起きてもおかしくありません。その危機に備えて何をしておくべきなのでしょうか――。地域で協力できる体制を作っておかなければならないのです。それには人と人との繋がり「縁」を結んでいくことが大切なのではないでしょうか。

＝3月11日以降の永楽町での取組み＝

①支援物資として、被災地へ送る毛布提供のお願い

②義援金のお願い

4月3日から約1ヶ月間、菊地原商店前に義援金箱を設置させていただき、集まった義援金は神奈川新聞社へ。

③道路、電柱の点検

亀裂、陥没がないか、町内をくまなく巡回した。

永楽町内会 東日本大震災義援金募金

東日本大震災と福祉活動

浦舟町西部町内会　高橋　ミチ子

3月11日、東日本大震災の時、この関東地方も、ものすごい大きな揺れがあり、住んでいるマンションの住人もパニックになった。

しばらくしてテレビを見ていたら、東北地方に大きな津波がおそいかかっている場面を目にした。福島県いわき市にいる叔母の事が頭にうかんだ。5年前に左半身がまひしている。家はどうだろう、3、4日間固定電話もつながらない。3月16日にいとこから、電話があり、地震で少し家の中にヒビが入っただけだが、放射能が30K圏内に入っている為、横浜へ行って良いかと電話が入り、主人に相談した所、「すぐに横浜へ」と。夕方近くに、叔母といとこが、車で来た。

話を聞くと、いわき市は皆、近くの学校や公民館へ避難して、お年寄りは腰をぬかし、避難もわからない人が多数いたと。叔母たちが住む平市は「ゴーストタウン」だとも言っていた。叔母もなれない所に来たので、すぐ「散歩に行くべー」というので浦舟ケアプラザへ、デーサービスの相談に行った。叔母もいわき市でデーサービスを利用していたので、本間所長と須田さんに相談したら、「福島県からの方でしたら利用出来ます」との事で横浜にいる間利用させてもらった。時々は五時まであずかって戴き、その間、夕飯の準備も出来た。夜は夜で、トイレに何回も起こされ、下着を直し、一緒にお風呂に入り、叔母が湯船に入るたび「ありがとう」と何回も涙を流し、お礼をいうのです。

そのうち4月10日頃、いとこが、放射能が低くなってきたので、家の方が心配だから平へ帰るというので、高速バスが出ているから、何時間かかるかわからないけど、帰ってみると云うので、帰平した。その後、一週間どっと疲れが出て、二・三日間ボーとしていた。

これも「縁」ですね!!

絆

万世町内会　岩田　慧子

先ごろ、今年の漢字一文字に「絆」が選ばれました。3月11日に起きた、あの想像を絶する大震災の状況をテレビで観て、日本中が、いいえ世界中の人々が大きな衝撃を受けたのは、記憶に新しいところです。

映像のなかのことが、とても現実のこととして受け入れられず、まさかこんなことがと心の中で何度も何度もつぶやいたことを今思い出します。

11日当日、地域の民生委員をしております私は、お一人暮らしをされている方々の安否を思い、すぐに電話をかけました。ところが家からの電話も携帯からも一切通じないのです。何度かけてもダメなので、一軒一軒お訪ねしてまわりました。

幸いどなたも無事であることを確認でき、ホッとしました。

今までとても便利だと思っていた携帯電話ですが、イザあの様な災害時にあっては、案外やわなものなんだと思い知ったのです。

その後被害の様子が次々と報道され、被災地に向けて国内外からの援助もあり、この先復興にはまだまだ程遠いものがあります。

でも3月11日以降、人々の心のなかに、今までにない大きな変化が生まれたのも、これまた事実です。

高度成長を目標に、ともすれば忘れさられてきた人と人との結びつき、心のつながりをあの大きな悲しみと苦しみを経験して、私たちは今いかに「絆」が大切か、そしてその心がどれほど尊いかを、しっかりと感じることができたのではないでしょうか。

小さな町の小さな絆が、少しずつ集まって大きな力となり、日本も世界もつながって行くことができれば、今年の一文字「絆」の意義は永遠に残る、すばらしい文字として私たちの心に残るのではないでしょうか。

(有)菊地原商店
〒232-0031 横浜市南区永楽町1-14-2
TEL 045-231-0185
FAX 045-252-5567

宅地建物取引業
有限会社 栄興商事
代表取締役　服部ヌイ子
横浜市南区永楽町2-17
TEL 045-251-2355　FAX 045-251-9881
URL http://www.a-kou.com

株式会社 昭栄電材
〒232-0031 横浜市南区永楽町2-17
TEL 045-231-2007
FAX 045-251-4794

不二美容室
〒232-0024 横浜市南区浦舟町1-19
TEL 045-231-2662

メガネ・時計・宝飾
タケダセイコー堂
〒232-0024 横浜市南区浦舟町1-19
TEL/FAX 045-231-1000

各種ナンバープレート・街区表示板
住居番号標示板・各種ネームプレート
千歳自動車工業株式会社
横浜市南区浦舟町5-77
TEL 045-231-8251㈹
FAX 045-252-9571

株式会社 根　建
代表取締役　根建　修
〒232-0024 横浜市南区浦舟町5-77
TEL 045-231-0095㈹

有限会社 田村商工
代表取締役　田村孝二
〒232-0024 横浜市南区浦舟町5-77
TEL 045-231-6174

東日本大震災と福祉活動について

浦舟町東部町内会　関口　　武

はじめに、被災された皆様には心から、お見舞い申し上げます。さて私も3月11日には愛犬と共に、散歩をしている最中でした。もうこの世の終わりかと思うような揺れに犬を連れている事も忘れ近くの塀にしがみつく程でした。吾に返り自宅に向かいましたが、人それぞれ恐怖に慄き座り込んでいる人を見かけた時私は冷静さを取り戻し外れた玄関の戸を入れてあげ自宅に戻ってテレビを点けた。

後は皆様と同じ情報を聴くばっかりであった。暫くしてから気が付きヘルメットを被り町内を一回りし、被害の無かった事を確認して会長宅に伺い一報を入れた。又テレビの前に戻り各地の情報を聴いているうち、交通と電話が不通と知りました。日が暮れ外が騒がしいので窓から外を覗くと延々と続く人々の行列、何だろうと思ったら通勤している人々が使用している電車、バスが全てストップしているとの事でした。どこまで帰る人なんだろうと思いテレビに目をやると、各地の駅から我が家に向かう人々の行列が映っていた。

黙々と歩く姿に私は「ふと」自分には何か出来る事がないか考えた。「こんな時歩いて帰る人は大変なんだなあ」何が出来るのか考えた時「町内会館のトイレを貸してあげても良いのではないか」とも思った。でも考えたら町内会の承認なしには出来ないと思いあきらめた。福祉活動をやろうという思いでは無かった。「皆さん」こんな時どの様に感じましたか？後で見るテレビの情報でも自分一人では何も出来ない事を感じ、この様な時役員の判断でも行動出来る様な会則でもあればと思い、ここに提案致します。

大震災の教訓と地域防災拠点訓練

高根町東部町内会　内藤　　稔

夜の帷りがおりた頃、我が家に友人が疲れた顔で、自転車を貸してほしいと訪れた。全交通機関が止まり、道路は大渋滞、自転車で何とか六浦迄帰れると判断した様だ。3・11の恐怖冷めやらぬ宵、まぁ一待て！と家に入れた時電話が鳴り、南吉田小学校からで、避難民が続々と集まっているので、町内会長として対応して欲しい、と要請があった。友人を泊める事にし、急ぎ学校へと向う。役所と学校は一旦は連絡がとれたが、被害は一応無いと言う事で切れた。役所そのものが耐震に難がある為、全員が避難して住民の面倒どころではなかった。

南吉田小学校における拠点防災訓練（外国籍の生徒と保護者を主体に）

学校では日本人も居たが、多くは外国籍の生徒とその保護者、なかには子供が居ない外国籍の大人のグループも、結局連絡のついた安藤会長、中村会長と私で、大まかに区域別に分け、帰宅出来るもの、泊まるものに分類し、やっと10時過ぎに帰宅出来た。学校の先生が全員残っていた御陰で、我々も心強かった。尤も先生も帰宅困難者だった訳だが。

この件を踏まえて11月6日、南吉田小学校拠点訓練を、区役所、消防署、学校が参加し行った。開会挨拶の後正門、体育館、備蓄庫等の鍵の開閉確認、ライフラインのチェックを行った後、4ヶ国の通訳が待機し、それぞれの国別に受付を設け、外国籍の生徒と保護者の来校を待った。結局10名に留まったが、それでも避難者の誘導、整列、カードの記載指導、リーフレットの配布、消化器の取扱い訓練は一人一人全員に行ない、ペットボトルの水を配布し、訓練を終了した。その後運営委員は会議室に集まり、反省会を開く。

今回参加人員は少なかったが、第一回であり、一歩踏み出した事に意義があり、学校も参加者増加に積極的にPRを考える、との答を得た。この様な訓練に完璧は無いので、会を重ねる如に更なるレベルアップを考えたいと話し合い散会した。

デザインテント・オーニング・リフォーム
店舗内・外装
有限会社 大木屋商会
TEL 045-231-1907
渡辺真一

あらゆる葬儀をプロデュース
株式会社 伊　藤
横浜市南区万世町1-15
TEL 045-231-5235
式場　清心館　南区中村町1-3-6

コーヒー&スナック
カプチーノ
横浜市南区万世町1-15 A&Hビル2F 東橋バス停前
TEL 045-261-6707
安藤政彦

電気関係全般・設計・施工
株式会社 木村電気・電化サービス
〒232-0021 横浜市南区真金町2-15-10
TEL 045-252-7762（大代表）

大震災と、そして戦争と！

高根町東町内会　内藤　　稔

ゆっくりと大地が南北に揺れ始めた、3月11日、午後2時46分。戸棚の掛金をチェック、オーディオの上にある写真と花瓶を下に降ろし、さてと！他は大丈夫かと部屋の中程に立ち、辺りを見回した。段々と大きくなる揺れに、ギリシャの置物が床に落下した。しかし益々激しくなる中で、冷静に片目はテレビの速報画面をチェックしていた。何故この状態でも冷静で居られたのか。

実は私は過去に恐い思いをしているからだ。今も忘れもしない、昭和19年12月7日、私が小学校、いや国民学校4年生の冬の初めであった。じりじりと敗戦が濃厚に感じられるこの頃、縁故疎開先の袋井の奥、山梨町の学校で、2学期から編入し、それでも楽しく、皆と溶け込んでいた。明るい日差が差し込む教室で、午後の授業が始まって間もなく、ゆさゆさと揺れ始めた。それが段々と激しさを増し、廊下と教室の境の硝子がそり返った瞬間、バリバリと割れ落下した。木造2階建の校舎がギシギシと悲鳴をあげ、天井から埃が降りてきた。これは大変な事になると思った時、先生が「皆んな外に逃げろ！」と叫ぶと出口の引戸を蹴破って飛び出す。生徒も我先にとそれに続いた。廊下から校庭に出る間、地面が波打ちうねる。地面がこんなに盛り上がるものなのかと、とても現実のものとは思えない中、走りながらも転倒してしまう。夢中で跳ね起き、やっとの思いで校舎を脱出、竹林に飛び込んだ。

穏やかな陽差だったのが、今は一変し辺り一面ゴーと腹に響く地鳴りと風が起り、土埃が太陽を隠し、電柱は火花を散らしている。何と言う変り様だろうか。校舎は右に傾き瓦が次々と落下していた。

どれだけの時間が経ったのだろうか。変り果てた校舎に何とか戻り、やっとカバンを取り出すと、全員すぐ帰宅する事になった。家に近づくと、二階建の私が帰る瓦屋根が見える筈の橋の上迄来ると、何と！そこから見えない筈の遠くの山々が浮び上っている。親戚の家も見事に全壊していた。が全員無事を喜び合った。

翌日、当時の新聞は、12月7日東海近畿地方で、死者、行方不明者千二百名以上の東海地震が発生。と被害については全く触れず、小さな扱いで報じていた。しかし後で知った事だが、同じ8日付のニューヨークタイムズは一面に、日本での地震のニュースを大きく掲載している。この違いを、どう評価するか。言論統制下での震災報道を思い、身が縮む思いである。死者はその後もっと増えていた筈である。暫くして、牛が引いている車に、ゼロ戦のパーツを乗せて行く所を目撃し、子供心にも日本の負けが近づいている事を、悟らされた。

年が明け、そんな状態の中、母親が迎えに来て、危険な横浜に一旦帰宅した。所がそこでは、米軍の空襲は段々と激しさを増し、2階の窓から見上げれば、ロッキード、グラマン、等の戦闘機が、我が物顔に飛び、焼夷弾を投下していた。これ等を見ていても不思議に空襲に対する恐怖心は沸かず、私の心は地震のショックで、占められていた。

米軍機が去った空に、キラキラと光るものが降って来た。外に出て拾うと、（後で知ったのだが）アルミホイールを小さく裁断したチップで、大量に空から舞い降りて来たのは、電波を乱反射させる為のものであり、生まれて初めて手にするこの破片を見て、余りの科学、資材、力の差に愕然とするばかり。日本の軍部は、この様な国と戦争をしている現実を、国民を巻き込み、どう考えているのだろう。間もなく横浜に大空襲を迎える前の静けさの中、再度親と離れ、集団疎開で箱根へ発つ朝、見送る母の目に涙が光っていた。

大きな災害に、その時立合ったすべての人はその瞬間の事が、消える事はない。永遠に。

いきな下町
よこはまばし
〒232-0022 横浜市南区高根町1-4
TEL・FAX 045-231-0286

皆様のレストラン
ココス 横浜阪東橋店
TEL 045-250-5796

日栄印刷株式会社
〒232-0022 横浜市南区高根町3-18
TEL 045-231-2866
FAX 045-251-3594

家庭防災員自主活動

真金町二丁目町内会　木村　みどり

3月11日に震災がおこり災害時に備えて救急法訓練（自主活動が10月20日(木)）に連合で行なわれました。

各町内会で防災訓練を行なっているところも有り各家庭でも訓練していればいざという時の為に役立ちます。

40名の方に応急担架、サオダケと毛布三角巾による包帯法等の応急救護訓練

三角巾は、年1、2回位行っていますが中々、上手に出来ません。何回も重ねる事で出来るようになります。三角巾を床に置かず腕の上で作る事が出来又、その三角巾で頭の怪我のやり方、腕のつり方の練習など

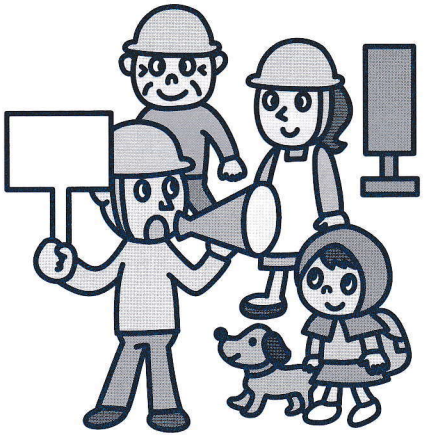
家庭防災員による三角巾の使い方訓練

町内会の初期消火訓練

震災の時は、三角巾が大変役に立ったとの事、本むすびのしばり方、これも、なかなか上手にいかなくすぐに忘れてほどけなくなってしまう。むすんだ物がほどけた時の感動、次にむすんだ時、又とれず何回かの繰り返し、物干しザオ（1本棒）2本と毛布1枚で担架を作るこれが上手に出来丈夫なのだ。一つ一つ覚えていくともっと何か良い方法があるはずと考えます。もう一つ前回教わった新聞紙で簡単に出来るスリッパ、これも災害時に枕元に置いておく事が良いそうです。

足の怪我をふせぐ為だそうですヨ！

又、新しい訓練も身につけておこうと思います。レジ袋利用で腕つり、おむつの替わりを作る事も出来、身近にある物を使って、何が出来るのだろうと考えます。



編集後記

災害をはじめとする危機に直面した時、最も大事なことは人と人とのつながりだと、多くの方が感じられていると思います。震災後地域の絆が求められるようになり、地域での福祉活動をする切っ掛けが出来ました。

今回の「えん」2号は、震災後の寿東部地区の活動状況を中心にした内容を記載いたしました。

安心・安全な町づくりの為に、地域の皆様の絆が深まっていくお手伝いを、広報誌「えん」を通じて少しでも出来ればと……。そんな思いを込めて、編集委員一同、次号も頑張りたいと思っております。（野村良子）

社会福祉協議会　寿東部地区事務局
〒232-0021　横浜市南区真金町1-5　TEL.045-261-7998　FAX.045-260-6473　中村